

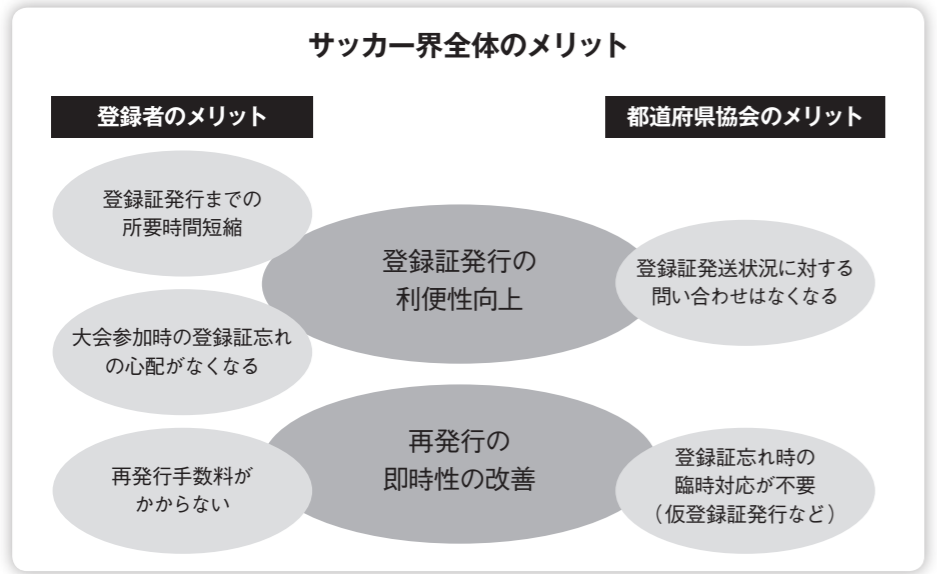
日本サッカー協会(JFA)のWeb登録サイト「KickOff」が2014年4月からリニューアルされる。今号では新たな特徴や導入の狙いについて解説する。

2014年4月より、KickOffがリニューアル

図1 JFA IDの取得対象者

カテゴリ	新KickOffで利用する主な機能	登録状況	JFA ID取得対象	2014年度JFA ID取得対象
I チーム責任者	各種申請・登録料支払い・大会エントリー など	新規/継続	チーム責任者(本人)	必須
II 選手	マイページ機能・電子登録証発行・登録情報の確認・競技履歴/試合結果の閲覧 など(2015年度予定)	新規/継続	選手 シニア(本人または代理人) 第1種世代(本人) 第2種世代(本人) 第3種世代(本人または保護者) 第4種世代(本人または保護者)	取得任意
III 審判	各種申請・講習会申込・受講料・登録料支払い・マイページ機能・電子登録証発行	新規/継続	審判員(本人または代理人)	必須
IV 指導者	各種申請・講習会申込・受講料・登録料支払い・マイページ機能・電子登録証発行	新規/継続	指導者(本人または代理人)	必須

図2 電子登録証導入のメリット



利用者の使いやすさを重視

JFAは2012年4月に「Jエントリープロジェクト」を発足し、JFA Web登録サイト「KickOff」のリニューアルを検討してきた。背景には、サッカーファミリー拡大による登録関連業務の負担増加がある。現在、チーム代表者や選手、指導者、審判員といったJFA登録者は142万5992人、JFA関連事業の参加者を含めたサッカーファミリーは延べ460万3913人を数える(2013年3月31日時点)。JFA登録者だけでなく、サッカーファミリー全体の登録管理とコミュニケーションの向上を視野に入れ、KickOffをベースとした新たなシステムを構築することとなった。

同プロジェクトでは、現行システムの問題点を主に都道府県協会へのヒアリング、登録関連窓口への問い合わせ内容の分析を行い、「ID管理基盤の構築」や「登録関連窓口の集約」など9つの課題を設定。業務改革方針案として整理しながらリニューアルの準備を進めた。

JFA情報システム室の竹嶋大助室長は、「はじめにシステムありきではなく、あくまでもユーザーの利便性や業務の効率化を追求したかった」と強調する。

新たなKickOffでは、「シングルサインオン」が採用される。これは、1度のIDとパスワード入力で、Webサイト上にある複数のサービスを利用できる仕組みだ。現行のKickOffは、①指導者、②チーム/選

電子登録証導入のメリット

登録証の在り方について課題を検討した結果、「電子登録証」も段階的に導入していく。2014年度を試行期間とし、2015年度以降の完全導入を目指す。現在、登録手続を完了から登録証が手元に届くまで約1週間を要するが、スマートフォンがあれば、登録者が手元で表示できる仕組みを作ることで、登録証発

手、③審判、④フットサルと4つのカテゴリに分かれたシステムで管理されており、指導者と審判など複数のライセンスを持つ登録者は、それぞれ別のIDとパスワードを使ってカテゴリごとに複数回ログインする必要はある。現状は住所変更など個人情報の更新もカテゴリごとに行わなければならない。しかし、シングルサインオンを採用することで、今後、登録者は一度のログインで全てのサービスを利用できるようになり、情報も一元管理できる。

「JFA ID」の取得が必須に

新KickOffでは、新たに「JFA ID」を取得することでシングルサインオンが可能になる。JFA IDとは個人を識別するためのIDで、すでに登録している利用者はJFA IDと自身の登録番号をひも付けることで、指導者や審判など保有資格に合った機能が利用できる。複数の資格を有する登録者は、カテゴリごとにIDとパスワードを管理する煩雑さから解放されるようになる。

JFA IDは新KickOffに限らず、今後JFAが提供するITサービス全般と連携を図り、シングルサインオンを実現させるものだ。

JFA IDを取得するには、メールアドレスの登録が必須だ。これは、JFAからの情報をサッカーファミリーに確実に届けるためだ。現状では、JFAや都道府県協会から登録者への連絡は電話やファックス、郵送が主な手段と

行の所要時間が大幅に短縮され、あわせて紛失した際に再発行する手続きも不要になる(図2「電子登録証導入のメリット」参照)。大会参加時の選手確認においては、登録情報をもとにしたエントリーシートの作成により、個別に登録証を持つ必要がなくなる。電子登録証を提示するためのスマートフォン専用アプリケーションの開発も予定しており、「講習会・研修会実施の際の登録者個人を識別できる簡易な方法などは残しつつ、登録者の現場における利便性を高めていく」(竹嶋氏)方針だ。

登録関連の問い合わせ窓口をJFAに集約

さらに、2014年度以降は、登録関連の問い合わせ窓口をJFAに集約する。カテゴリごとに設置されている窓口を一本化することで、「問い合わせ先が分からない」といったストレスや都道府県協会事務局の問い合わせ対応による業務負担を解消し、窓口業務を効率化することが狙いだ。登録者からの疑問を1カ所に集めることで業務課題を分析できる利点もある。竹嶋氏は、「問題点を把握し、解決策を探ることで、ユーザーの視点に立った機能拡張が進められるはず。またシステム周りの質問は、システムに長けた担当者が回答することでユーザーにとってもより良い環境になるのでは」と期待する。

また、新KickOffはマルチデバイス(※2)対応となる。「Internet

なっており、登録者にうまく情報が伝達されないケースがある。例えば、住所が変更になった場合、登録会員がKickOff上のデータを更新し忘れたために郵便物が届かないといったトラブルだ。こうした問題を解決するため、新KickOffではメール通知機能やマイページ(※1)への情報掲載を充実させる。指導者であれば、講習会の案内がマイページに随時掲載され、受講決定や可否確定通知が登録したメールアドレスに送信されるなど、情報を素早くキャッチできる。

また、「パスワード忘れ」への対応についてもメール通知機能を積極的に活用していく。登録されたメールアドレスに新パスワードを送信する「ワンタイムパスワード方式」や、設定した質問に回答すると新パスワードが表示される「秘密の質問方式」を採用する予定だ。竹嶋氏は、「登録者からのFAQを集計すると、「パスワードを忘れた」という問い合わせが圧倒的に多い。登録者がパスワードを再設定できる仕組みを作ることで、問い合わせに時間を取られることなく、すぐにパスワードを再設定してシステムを利用できる利点がある。当然、窓口担当者の負担も軽減される」と話す。

2014年度からJFA IDの取得が必須となるのは、「チーム責任者」「審判」「指導者」。選手については、2014年度は任意となるが、競技履歴や試合結果の閲覧機能など、「ログインしてもらうことのメリット」(竹嶋氏)をつくった上で、2015年度以降の必須化を予定している(図1「JFA IDの取得対象者」参照)。メールアドレスを持つ人が少ないシニア、第3種や第4種につ

セキュリティポリシーを高める

新KickOffをスタートさせるにあたり、JFAでは日本サッカー界の「セキュリティポリシー」(情報セキュリティに関する基本方針)をさらに高めていく。竹嶋氏は、「KickOffは個人情報塊。ここから漏えい事件が発生すれば社会的信用を失うだけでなく、サッカーファミリーが登録をちゅうちよする事態に発展しかねない」と警鐘を鳴らす。JFAは今年4月にICカード社員証を導入し、オフィスへの出入管理を強化した。JFAと共にKickOffシステムの管理者となる都道府県協会に対しては、情報セキュリティに関する研修会を随時開催していく予定だ。

新KickOffの情報は今後、JFAの公式ホームページや本誌など、JFAが提供する各種媒体で展開される。動画によるマニュアルも製作中で、都道府県協会や各種委員会と協力して全国のサッカーファミリーに伝達していく。竹嶋氏は、「登録は日本サッカーの根幹。今後登録者が増え、感じられるようなサービスを創造していきたい」と意気込んでいる。